

2013年度第37回横浜市ミニバスケットボール連盟

春季大会

女子決勝 ひかりが丘31 VS 24 瀬谷第二

1Q

開始10秒、ひかりは⑩のミドルで先制すると、⑥のコーナーからのジャンプシュートも決まり、4-0とリードする。対する瀬谷2は⑧がミドルを決め追いかける。ひかりは⑩がミドル、ドライブと連続得点。瀬谷2も⑥のスチールからバスカン④のミドルで8-7の1点差に詰め寄る。しかしひかりはこの日大当たりの⑩が再びミドルを決め引き離す。12-9ひかりリード。

2Q

お互いにハーフコートマンツーマンでスタート。ひかりは⑤のステップワークで得点すると⑦のミドル、リバウンドをねじ込んでバスカンと残り3分で19-9と10点差がつく。早めにタイムアウトを取った瀬谷2だったが、ひかりの寄りの速いディフェンスを攻めあぐね21-9、ひかり12点リードで後半へ。

3Q

両チームハーフコートマンツーマンでスタート。ひかりは⑤がミドルを決めると瀬谷2も⑤が入れ返す。ひかりはボールマンに対するスクリーンを使いながらスペースに飛び込みシュートを試みるが瀬谷2のねばりのディフェンスの前になかなかシュートが入らない。一方瀬谷2もひかりの寄りの速いディフェンスに苦しみなかなか点が伸びない。結局このクォーターは6-2。27-11とひかりが16点リードして4Qへ。

4Q

ひかりは開始早々、ゾーンプレスで連続得点し差を20点とする。対する瀬谷2はディフェンスを1-1-3に変える。このディフェンスが効き始めると16点差とした直後、1-2-1-1のゾーンプレスでさらにプレッシャーをかける。瀬谷2は④のジャンプシュート⑤のドライブで7点差まで詰め寄るがここまで。31-24でひかりが丘が初優勝を果たした。



男子決勝 榎が丘34 VS 38 六ッ川

1Q

六ッ川はトライアングルツー。榎が丘はハーフマンツーからショットインプレスでスタート。六ッ川は⑥のポストプレイ、④の個人技で得点を重ねていく。対する榎が丘は④を中心に攻めるが、六ッ川の④に対する速い寄りに良いシュートを打つことができない。12-4六ッ川8点リードで2Qへ

2Q

六ッ川はトライアングルツー。榎が丘はハーフマンツー。お互いにオフェンスがかみ合わず2分間ノーゴール。榎が丘は先にタイムアウトを取る。タイムアウト後榎が丘⑤がジャンプシュートを決めディフェンスのプレッシャーも強めていく。⑦もリバウンドシュートを決め点差を詰めていく。榎が丘は良い形で速攻やドライブを仕掛けオフェンスのリズムを取りもどすが、六ッ川のブロックショットにあい、なかなか得点が決まらない。六ッ川は4ファウルで得たフリースローを確実に決め、18-10六ッ川8点リードで後半へ。

3Q

榎が丘はマンツーマン。六ッ川はトライアングルツー。榎が丘は開始早々、⑨と⑤がジャンプシュートを決める。六ッ川のトライアングルツーに慣れはじめた榎が丘は、④の絶妙なアシストパスから⑤がバックアッププレイを決め差を詰める。六ッ川も④あドライブをねじ込みバスカンを奪う。六ッ川は榎が丘のはげしいディフェンスに④の個人技だけとオフェンスが単調になってしまう。対する榎が丘は⑪のリバウンドシュートがバスカンとなり、応援席から大歓声が起こると⑨が難しい体勢からジャンプシュートを決め、さらに⑤がスティールから速攻を決める。25-24榎が丘が1点差まで詰め寄り最終Qへ。

4Q

六ッ川、榎が丘ともにはハーフコートマンツーマン。榎が丘は⑤がドライブを決め逆転。対する六ッ川は④以外の選手もリングに向かいはじめると⑤のミドルで再逆転。⑧もリバウンドシュートをねじ込

みバスカン。榎が丘⑤もジャンプシュートを入れ返す。六ッ川は④のドライブからのアシストを⑩がしっかり決め4点差とする。残り2分10秒、榎が丘⑤が再びドライブを決め、2点差に。六ッ川⑥榎が丘⑨が個人技で点を取り合いどちらも譲らない。残り57秒。榎が丘④がフリースローを2本決めついに34-34の同点へ。残り10秒、榎が丘⑤がドライブを仕掛けるが、六ッ川のナイスディフェンスで六ッ川ボールに。六ッ川④がフリースローライン付近で打ったショットにファイルの笛。残り0秒で六ッ川④のフリースローとなるが、2本とも外し、決勝戦は延長に突入した。

<延長>

六ッ川はフリースローを落としてしまった④が果敢に攻める。ドライブを決め2点リード。榎が丘は④を中心に攻めるが六ッ川の高さのあるディフェンスに苦しいシュートとなってしまう。残り37秒。六ッ川は4ファウルで得たフリースローを2本決め勝負あり。

38-34で六ッ川が大接戦を制した。



女子準決勝 ひかりが丘41 VS 19 中山

1 Q

④のミドルシュートで先手を取ったひかりが丘が、出だしからオールコートでプレスをかけ、相手のミス誘った。運びに苦しみ、シュートまで辿り着けない時間が長く続いた中山。⑦が積極的にドライブで攻めたり、⑫がゴール下に合わせたナイスプレーを作り出したりましたが、得点には結びつかず、17-3と、ひかりが丘の大量リードで1Q終了。



2 Q

お互いにシュートが決まらず、ロースコアになった。ひかりが丘がオールコートマンツーマン、中山がハーフコートマンツーマンでリングを守った。ひかりが丘は、ロングシュートやミドルのターンシュー

トなど、積極的にシュートを打ち続けた。中山はディフェンスリバウンドをなかなか取ることが出来ず、ひかりが丘にチャンスを与え続けてしまう。苦しい展開が続く、21-5と点差を詰めることができないまま2Q終了。

3 Q

ひかりが丘のセンタープレーをダブルチームで抑え、⑥とのスクリーンプレーで⑩がナイスシュートを決めて良いスタートを切った中山。しかし、後半もボール運びに苦しみ、ミスが続く。⑦が果敢にドライブを狙うが、攻めきれず得点には至らなかった。一方、ひかりが丘はミドルシュートとロングシュートが良く決まり、シュート率60% (⑤は100%)と、素晴らしいシュート力を見せつけ、33-9で3Q終了。

4 Q

ひかりが丘は3-2のゾーン、中山はマンツーマンで始まった4Q。パスで

うまくボールを運び、⑧のゴール下シュートで点を重ねるひかりが丘。対する中山は、3-2ゾーンを崩すことが出来ず、ミスが続く。タイムアウト後、対角へのパスを狙って3-2ゾーンを崩し始め、④、⑦が中外とシュート狙い、オフェンスリバウンドもよく頑張つてチャンスを作り続けた。しかし、点差を縮めることはできず、41-19と、ひかりが丘が圧勝した。



女子準決勝 瀬谷第二 43 VS 19 平戸高層

1 Q

瀬谷第二ボールでスタート。瀬谷第二は最初のオフェンスに失敗するも、全員で粘り強くリバウンドを拾い瀬谷第二4のジャンプシュートで先取点をあげる。続けて瀬谷第二18のジャンプシュートや、速攻、フリースローなどで着実に得点を重ねる。攻守ともにリバウンドを確実に奪い試合のペースを握った瀬谷第二がスタートダッシュに成功した。



瀬谷12-0平戸。

2 Q

平戸高層5のアシストから平戸高層56がレイアップを決めこの試合初得点。瀬谷第二も簡単には譲らず7のジャンパー、13のゴール下シュートと加点しリードを広げるが、平戸高層も食い下がり、6ジャンプシュート、5がリバウンドを奪いシュートを決める。

その後も両チームシュートを決め合い、平戸高層が点差を縮め前半を折り返した。

瀬谷21-12平戸

3 Q

瀬谷第二4のバスケットカウント、3点プレーと最高の立ち上がりを見せる平戸高層も7がゴール下からシュートを決めるが、勢いに乗った瀬谷第二が8、5と連続でシュートを決める。平戸高層もフリースローのチャンスを得るが決めきれない。瀬谷第二は更に加点しリードを広げるが、平戸高層5がプザービーターを決め最終に望みをつなぐ。

瀬谷35-17平戸

4 Q

最終Qは両チームシュートが決まらず重い立ち上がりとなる。

しかし、瀬谷第二がディフェンスから流れをつかみ瀬谷第二6、4がシュートを決める。

平戸高層はタイムアウトをとるが、瀬谷第二のディフェンスを攻略できず、このQを8-2とした瀬谷第二が決勝進出を決めた。瀬谷43-19平戸



男子準決勝 いずみ野 27 VS 52 榎が丘

1 Q

北部地区1位の榎が丘と、西部地区1位のいずみ野の戦いは注目の一戦となった。両チーム、ディフェンスはオールコートマンツーマンでゲームスタート。#9のジャンプシュートで先制点をあげた榎が丘は一気に流れをつかみ、4番のドライブなどでも得点を重ねゲーム開始3分で8-0とリードを広げる。対するいずみ野は、ハーフコートバスケットでミスマッチのセンター#5にあわせペイントエリアでの得点を狙うが榎が丘の素早くタイトなディフェンスの寄りや早いローテーションに苦しみ得点に繋がらず、残4分で#5がゴール下のシュートファウルを誘い、冷静に沈めたフリースローでようやく得点となった。結局いずみ野はフィールドゴールにつなげられず10-1と榎が丘リードで1Q終了

2 Q

両チームディフェンスはマンツーマンでスタート。榎が丘#5がジャンプシュートを決め2Qの初得点をあげると1Qの良い流れを崩すことなく落ち着いてゲームを運んでいく。いずみ野も#4中心に動きのあるオフェンスから得点を狙うが、榎が丘の粘り強いディフェンスの前に中々フィールドゴールに結びつけることが出来ない。2Q3分、いずみ野は流れを変えるためタイムアウト。タイムアウト直後にいずみ野は#4がジャンプシュートでこのゲーム初のフィールドゴールでの得点をあげる。これがきっかけとなり、いずみ野のオフェンスにもリズムがうまれる。いずみ野#4の見事なドライブが決まり追い上げをみせる。しかし、榎が丘も負けじと#7が合わせ

からのゴール下のシュートなどでフィールドゴールを重ね16-5榎が丘11点リードで後半を迎える。

3 Q

後半も両チームのディフェンスはマンツーマンでスタート。後半最初の得点はいずみ野の#5のゴール下の力強いシュートとなった。前半のリードを挽回しようと、#5の1対1や#4のジャンプシュートで得点を重ねていく。しかし、榎が丘は#4、5、7が冷静にゲームを運び、また#9、#11が粘り強くオフェンスリバウンドを取り、いずみ野に中々流れを渡さない。いずみ野も#5の早いドリブルで榎が丘のディフェンスを突破しようとするが、榎が丘のスキルの高いドリブルス



ティールに阻まれる。また、いずみ野のスローインのボールもインターセプトされ、榎が丘に得点を重ねられる。いずみ野も#7、#9、#12が上手く運びに参加し、リズムを掴もうとオフェンスを展開するが3Q残2分、榎が丘は#4が#11へ相手の頭上を越えるワンパスを見事に成功させ、#11がバスケットカウントを得てベンチも含め一気に盛り上がりいずみ野に流れをつかませない。それでも何とか4Qに繋げようと、いずみ野#4がドライブからフリースローを冷静に決めるが榎が丘はさらに終了間際に、#4が#5へ見事なアシストパスをし、それを#5がしっかりと決め、36-14で榎が丘が大きくリード。4 Q

両チームのディフェンスはマンツーマン。最終クォーター、いずみ野は早い展開でオフェンスを仕掛け、得点を重ねる。特に4Q序盤の#5のミートからのドライブ、ターンシュートなどで加点したプレイは#5の個人的な力を感じさせる見事なプレイであった。しかし、榎

が丘は3Q同様にガード陣が上手くゲームをコントロールし、いずみ野の追い上げを許さない。いずみ野は残3分にたまたまタイムアウト。タイムアウト直後からいずみ野はオールコートマンツーマンプレスを仕掛け得点を狙いに行くが、ガード陣のファンダメンタル、スキルの高い榎が丘に上手くかわされ中々得点にむすびつかない。それでも意地をみせたいずみ野が猛攻を見せるも、榎が丘のガード陣のゲームコントロールなどにリードを詰めることが出来ず、試合終了。

52-27で榎が丘が見事勝利を収めた。ガード中心のチームとセンター中心のチームの対決で注目を集めたこの一戦、今回はガード中心の榎が丘チームに軍配が上がったが、いずみ野チームの個々の能力をみると秋に向けての成長におおいに期待がもて今後の躍進が楽しみである。



男子準決勝 六ッ川 46 VS 41 鶴ヶ峰

1 Q

ティップオフから、鶴ヶ峰ボールでスタート、六ッ川オールコートマンツーマンDF。鶴ヶ峰ハーフコートマンツーマンDF。序盤はお互いに相手のDFの様子をみながら1対1を仕掛けていく。鶴ヶ峰6番のドライブイン、ファールをもらいフリースロー2本決める、対して六ッ川4番がドライブインレイアップシュート成功。その後、膠着状態が続く中、六ッ川4番の個人技

による1対1で連続ゴール。鶴ヶ峰は8番のミドルシュートで応戦、徐々に試合が動きだし両チームとも果敢に1対1を仕掛けフリースローを得るが、両チームとも外してしまう。残り2分を切ってから、鶴ヶ峰6番の速攻からレイアップ、1対1からのドライブインで連続ゴールでリードする。六ッ川は8番セン

ターを軸に攻めを展開するが得点まで結びつかず、6-8鶴ヶ峰リードで1Q終了

2 Q

六ッ川ボールスタート、DFは両チーム1Qと変わらず。開始早々、六ッ川10番のポストプレイからバスケットカウント、さらに速攻で連続ゴールし逆転する。六ッ川の勢いは止まらずプレスDFからさらに得点を重ねる。鶴ヶ峰は流れを切りたくここでタイムアウト(残4:18)タイムアウト後、鶴ヶ峰4番の動きが変わる、果敢にドライブをかけレイアップシュート、さらにDFリバウンドから速攻で連続得点。さらに鶴ヶ峰9番⇒5番のパスランプレイからフリースロー

を得る1本を確実に決め1点差につめよる。ここで六ッ川5番がトップポジションからの1対1を仕掛ける、鶴ヶ峰のDFが対応しきれず、レイアップ、ジャンプシュート、レイアップと3連続ゴールし一気に引き離す。OFに加え六ッ川はDFのリズムも良くなり、鶴ヶ峰がボール運びに手間取る、パスカットから六ッ川10番の速攻が決まり、26-13六ッ川リードで2Q終了。

3 Q

六ッ川ボールスタート、DFは両チームとも前半と変わらず。後半先制したのは、六ッ川6番のドライブからのストップシュートでフリースローとなる。外れたリバウンドを六ッ川10番が取りねじ込んで先制ゴール。鶴ヶ峰は6番のミドルシュートで応戦。続いて鶴ヶ峰8番のミドルシュート、六ッ川は4番の1対1からレイアップと一進一退の状態。中

盤に入り、鶴ヶ峰8番の1対1でファールをもらいフリースロー確実に2本とも決める。さらに鶴ヶ峰4番がパスカットから速攻、ターンオーバーから6番の速攻と連続ゴールを決め追い上げムードになる。しかし六ッ川はあわてず8番センターの高さを生かした攻めにより鶴ヶ峰のファールを誘う鶴ヶ峰6番が4ファールになる。終盤にきてもお互いの攻めかたは変わらず、鶴ヶ峰は8番のミドルシュート、6番⇒4番のパスランプレイからレイアップ、六ッ川は8番、10番のセンター陣がふんばりゴール下、ミドルシュートで得点し、36-27六ッ川リードで3Q終了

4 Q

鶴ヶ峰ボールスタート、4Qになりお互いのDFも激しくなりハーフコートバスケットノターンオーバーが続ぎ、ノーゴールのまま2分が過ぎた。膠着状態を破ったのは鶴ヶ峰8番のミドルシュートから6番のリバウンドによるゴール下シュート、バスケットカウントとなりフリースローはおしくも外れる。ここからゲームが動き始める、六ッ川6番のドライブからの8番への合わせで得点。鶴ヶ峰4番の個人技によりゴール下シュート、つづいてターンオーバーから8番速攻による連続ゴール、一気に鶴ヶ峰ペースかと思われたが、六ッ川4番がしっかりとゲームコントロールしドライブインからワンゴールを返す。しかし、鶴ヶ峰の勢いは止まらず、4番のリバウンドシュート、パスカットからの速攻で3点差となる。勢いによる鶴ヶ峰はDFの動きもよくなった、しかし六ッ川4番がプレスをかいくりゴール下10番へのパス成功、その後お互いに激しいプレスDFが続くなか、鶴ヶ峰8番パスカットから速攻、対し六ッ川4番の落ち着いたボール運びからゴール下10番へのパス+シュート成功したところで終了ブザー。46-41で六ッ川が勝利し決勝に進んだ。最終Qはナイスプレーに観客から大きな声援/拍手が飛び交う素晴らしい試合でした。

